

第35回国際平和ポスター・コンテスト

【335-B地区並びに3・4リジョン合同作品展】



2月18日(土)～21日(火)なんばウオーク「フォレストパーク」において、国際平和ポスター・コンテストの335-B地区並びに3・4リジョン合同作品展が開催されました。オープンには、津田地区ガバナーをはじめ3・4リジョンのRC・2名のZC・地区広報(MC)委員にお越しいただきました。

335-B地区からは32作品、3・4Rからは90作品が展示され、黄緑・水色・ピンクのカラーパネルに貼られている子ども達が平和について一生懸命考えて描いた作品は素晴らしかったです。

なんばウオークに来られた一般の方も足を止めて作品をひとつひとつ丁寧に見てくださる姿に安堵し、うれしく感じました。

「この作品展が子ども達の励みになるように、そしてライオンズクラブをPRするためにも作品展は毎年続けていきたい」と津田地区ガバナーよりお言葉をいただき、広報(MC)委員会としても同じ思いで取り組んできた甲斐があったと思っております。



編集後記 地区広報(MC)委員長 徳山 性培

ゆうあい(電子版)274号は、SDGsの取り組みの事例として「子どもの貧困・ひとり親世帯支援並びにフードロス対策」のアクティビティについてご紹介いたしました。また、7リジョンが行った「ライオンズ祭り～つなぐ未来へ～SDGsを次世代へ」も併せてご紹介しております。SDGsとは「持続可能な開発目標」です。この目標に向かって取り組んでおられるアクティビティが、持続していくことを願っています。

これからSDGs関係のアクティビティを考えておられるクラブは是非参考にいただければ幸いです。

発行者：地区ガバナー 津田 勝之

発行：ライオンズクラブ国際協会335-B地区 広報(MC)委員会

編集者：委員長/徳山 性培(東大阪河内)

委員/岡 博文(大阪新梅田シティ)・石原 力(大阪城東)・佐々木 健(大阪ドリーム)・中尾 克雄(豊中南)・淀 大輔(枚方ローズ)

神崎 崇(和泉大阪)・成子 年男(岬)・小谷 耕司(那賀)・中川 彩(白浜南)・山野 桂祐(東大阪大東)・桑野 聡史(藤井寺)

事務局：〒541-0048 大阪市中央区瓦町 4-4-8 2F TEL / 06-6222-7331 FAX / 06-6222-7336 地区ホームページ / <https://www.lc335b.gr.jp>

Together We can

LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 335-B OFFICIAL PUBLICATION



No. 274

2023
March 31



335-B地区専用
アプリQRコード

ライオンズクラブ国際協会335-B地区広報誌

ゆうあい

2022～2023 335-B地区 地区ガバナー スローガン

温故知新

～つなぐ未来～



地区ガバナー 津田 勝之

温故知新

大阪西LC

子どもたちの応援隊

○2020年からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針
大阪市北区社会福祉協議会に「何かできることはないですか?」と問いかけたところ、ご提案いただき始めました。

○アクティビティについて

大阪西LCは大阪市北区社会福祉協議会と連絡を取り合い、必要とされる取り組みをしております。2020年はメンバー1人1人が家庭で不要な食品を持ち寄ってフードパントリーに参加していましたが、回を重ねるごとにメンバーが、ひとり親世帯の助けになればと、インスタント食品・パスタ・米・レトルトフード等を購入して持参してくれるようになりました。今ではメンバーの愛情のこもった小さなお店のようです。

また保健室に「忘れたから」と言って毎月生理用ナプキンをもらいに来る子供も少なからずいることを聞き、コロナ以降浮き彫りになった生理の貧困に気づきました。思春期の少女にそんな辛い思いをさせたくないからと年間120パックのナプキンを寄付しています。

大阪市北区社会福祉協議会主催「子どもの居場所」事業は、大阪市北区で3か所あり、学校にも家庭にも居場所を感じられない子供たちが集い、ケースワーカーがフォローしてくださっているそうです。夏休みなど長期休暇になると給食がなく、食事が摂れない子供もいるようで、長期休暇のタイミングで年6回お菓子の詰め合わせを贈っています。お湯を沸かせない小さな子もいるので、レトルト食品やコーンフレークなど開ければ食べられる非常食も入れています。プライバシー上、私たちが会うことはできませんが、元気に無事に大きくなって欲しい思いを込めてみんなで袋詰めをしております。

未来を担う子供たち、それを育む家庭が幸せであるよう、当クラブができることは本当にささやかですが、応援できればと、今後もアクティビティをしていきたいと思っております。



会長 三宅 顯子



大阪西LC
みらいへ支部

北御堂フードパントリー

○2021年度からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針
2019年1月にみらいへ支部を立ち上げ、活動を進めていましたが、コロナ禍に突入し思うように活動ができない時期が続きました。アクティビティを模索する過程で大阪市中央区社会福祉協議会と出会いこのイベントを紹介されました。2021年12月に1回目の「北御堂フードパントリー×ワークパントリー」が行われ、そこに協賛したのが始まりです。今後も継続して自分たちのできる範囲で協力していければと考えています。

○アクティビティについて

コロナの影響で生活に困っている世帯、満足に食事をとることができない子どもはまだ多いです。大阪市中央区子どもの居場所連絡会は、そういったご家庭に保存のきくお米、レトルト食品、インスタント食品などを配布する目的でこのイベントを主催しています。多くの協賛企業・団体に交じって、私たち大阪西LCみらいへ支部は、第1回目よりレトルトパスタソースの提供と配布等の人的支援を行っています。

ボランティアとして参加し、受付・配布・荷詰めなど様々な作業に携わることによって様々なことが見えたように思います。必要に駆られて食糧を受け取りに来ていることが見受けられる方がおられる一方で、貰えるものは貰っておこうという内面が想像できる方、隙を窺って複数回受け取る方の姿も散見されました。

無駄なことをしているのではないかという疑問も頭に浮かびますが、平身低頭感謝の意を伝えてくださる方の姿に接すると無駄ではなかった、とも感じます。また他の団体の方々と共に作業をすることにより、新たな繋がりができたことも意義のあることでした。まだコロナが収束したとは言えません。この苦境をみんなで助け合い乗り越えるためにもこの活動は続けていきたいと思っております。



会長 吉田 寛



大阪新大阪LC

GLS<Good Living Support>事業
「家族の日」イベント
～家族の絆を深めよう～

○2020年からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

コロナ禍の影響により家庭で過ごす時間が増え、家族の大切さを見つめ直す機会になればと計画、開始当初はメンバーの友人・知人やそのご家族などの参加で開催しましたが、昨年度から大阪市淀川区社会福祉協議会の協力を得て、淀川区内に住む子育て中のご家庭の参加を中心に開催しています。

○アクティビティについて

GLS<Good Living Support>事業は、当クラブがC N37周年(2017年)に、社会自立支援を目的に組織した継続奉仕事業で、音と声、手を通して、社会への不安・障害を抱えている人が一歩前へ踏み出せるような活動を実施しています。

この数年間、コロナ禍の影響で日常生活が変化し、家庭で家族と過ごす時間が増えたことなどから、今期C N42周年のテーマも一昨年に引き続き「家族」としました。

内閣府では11月第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、理解促進を図っています。

子供を家族が育み、家族を地域社会が支える事の大切さを考えるきっかけとなるよう、家族の絆を深めるイベント、また「家族の日」を広める活動を11月27日(日曜日)に実施しました。

大阪市淀川区社会福祉協議会の協力で参加を募集し、淀川区内に住む子育て中のご家庭を中心に90名を、クラブ例会でお世話になっているホテル大阪ガーデンパレスに招待しました。

昼食会のあと、プロのマジシャンによるマジックショーやマリオネットなどの催し、射的や輪投げ、ガチャガチャなどのゲームコーナーも設置し、楽しいひと時を過ごしました。

今回で第3回目となる「家族」をテーマとしたこのイベントは、ライオンレディやメンバーの家族も労力奉仕で参加し、子どもたちと一緒に一日楽しく過ごすことができ、笑顔あふれた会場にメンバーも充実したと感じた奉仕活動となりました。

イベント終了後、大阪市淀川区社会福祉協議会に実施していただいた参加者へのアンケートでは、多くの感謝の言葉や、来年のイベント内容のリクエストなど、今後の活動に参考となる意見を頂きました。

会長 土江 潤平



大阪若獅子LC

ひとり親世帯応援!

○2020～2021年度(最初に子ども食堂に協力するためチャリティゴルフコンペを開催した)

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

結成当時、コロナ禍で先行きの不安を抱えておられる「ひとり親世帯」を応援しようと考えました。また、子どもの貧困に対して深く関心を持っているメンバーも多かったこともあり、当クラブでは子どもやひとり親世帯の支援を中心にアクティビティを考えている。

○アクティビティについて

当クラブは今年度、大阪市北区社会福祉協議会での「フードパントリー」や、「ひとり親世帯の支援」に対するアクティビティを7・9・11・12月に行いました。ひとり親世帯の支援は、結成以来ずっと継続しているアクティビティになります。

7月と12月には、大阪市北区社会福祉協議会で開催されたフードパントリーで「お菓子のつかみ取り」を行いました。これは、社会福祉協議会さんから「親子での参加が増え、子どもたちの楽しみのひとつになっている」と言われるアトラクションになっております。袋いっぱいを楽しそうにお菓子を詰めながら親子の会話がはずみ、我々も参加者とコミュニケーションが持てる場ともなっています。

9月には淀川の河川敷でひとり親世帯を対象としたBBQ大会を行い、ボール遊びやスイカ割りなども楽しんで、家庭同士はもとより、メンバーも子ども達と一緒に遊んで、楽しい一日になりました。

11月には日本ライオンズ70周年記念アクティビティの参加として、メンバーが以前から「子どもの居場所」などで行っている弁当の無料配布に協賛し、配達のお手伝いに加え、デザートを提供をいたしました。

3月にはチャリティゴルフコンペを開催し、その収益で北区・淀川区在住のひとり親世帯の方を対象としたフードパントリーを実施して、お米やレトルト食品・カップ麺・お菓子などを配布する予定です。

大阪若獅子LCが結成されたのは2020年、コロナ禍の真っ只中で全国的に失業者が増え雇用環境に大きな影響を与えていました。特にひとり親で家計を支えなくてはならない「ひとり親世帯」の方が先行きの不安を抱えているということで始めたのがきっかけでしたが、それが軸になる継続アクティビティの道筋になりました。

幹事 芳崎 勝大



大阪大正LC

「つつじ食堂」
(小学校児童に対する朝食提供事業)

○継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

大正区のホームページで、大正区の小学校では朝食欠食児童が少なくない、という事実を知ったことが契機となりました。子供の健全な育成に資するとともに、SDGsの4.「質の高い教育をみんなに」という目標にも合致していることから継続的支援方針を決定しました。



○アクティビティについて

文部科学省の調査によれば、成長期の子供の朝食摂取と学業成績の間には有意な相関関係がある。実際、朝食を摂らずに受ける午前中の授業では、頭脳を働かせるためのブドウ糖が供給されないため、頭の働きが活性化しないし、体育授業においても、前日夕食から昼の給食が始まるまでの18時間近く、エネルギーの補給がないため体をしっかり動かせない。要するに朝食欠食は学習効果を大きく阻害する要因となっている。

そのため当クラブでは、少しでも早く多く子供に朝食摂取の習慣をつけさせたいと考え、学校始業前に学校で朝食を提供しようという構想を立てた。そして2019年9月、クラブ内で実行委員会を組成し、当クラブの考えを区役所こども教育担当課、保健福祉課に伝え、実行に移すための具体的な話し合いを始めた。

この構想を知った大正区小林地域の人々、具体的には小林地域まちづくり実行委員会、大正区社会福祉協議会、小林小学校PTAの皆さんがこの趣旨に賛意を表明し、大正区役所の下に結集した。そして大正区の花である「つつじ」を冠した「つつじ食堂実行委員会」を組成し、小林小学校において朝食を提供すべく、2020年3月、事業開始に向けた具体的な検討に着手した。そして話し合いの結果、学校始業前に家庭科室、多目的室を利用し、女性会が中心となって調理した食材とパンとジュースを子供たちに提供するという形態で、6月に第1回目を実施する実行案が固まった。この案で当クラブは、すべての食材の調達に係る資金を提供するとともに、パンと飲み物の小学校への搬入を受け持つこととした。

ところが折悪しく、ちょうどこの時期に新型コロナの感染が拡大し始めた。そのため「三密」を伴う当初実行案は断念せざるをえなくなった。しかし、何とか次善の策を検討して実行に移そうという気運が高まり、子供の下校時に翌朝食用のパンとジュースを持ち帰らせる、という代替実行案で暫定的に対応することを決定した。そして12月、待望の第1回目を実行に移すことができた。

以降、コロナ感染の非常事態宣言等が発令されない限り、原則として月1回の頻度で朝食提供を継続している。そして今は本来の実行案に戻す準備に取り掛かろうとしているところである。

現在、大正区では「朝食欠食児童対策推進会議」が立ち上げられ、欠食児童の実態把握と今後の対策立案に向けた協議が進められている。このような取組みに連動する形で、当クラブはこの奉仕活動を継続して行きたいと考えている。そして小さな活動であっても、多くの同様な取組みが次々に立ち上がり、それらがやがて大きな力になり、欠食児童がいなくなる状況を作り出したいと願っている。

第1副会長 菅野 耕一



豊中LC

「おかまち子供食堂」支援アクティビティ

○2019年からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

2019～2020年度の会長基本方針「未来を担う子供たちへの支援活動」を受けて、主なアクティビティとしておかまち子供食堂支援活動を開始し、年に2～4回の活動を行っています。



○アクティビティについて

2022年12月10日土曜日 第77回おかまち子供食堂の開催日。この日は近所のゾウさん公園にて、その一環として、クリスマスビンゴ大会が行われる。これは豊中LCのアクティビティでライオンズメンバーから寄せ集めたビンゴの景品(プレゼント)をブルーシートの上に並べていく。もちろん、中身がわからないように透けないビニール袋に入れて置いていく。公平さを保つためだ。今期会長の私は、恥ずかしながら実は子供食堂クリスマスビンゴ大会初体験である。ビンゴ大会が始まるずっと前の時間から何人かの子供たちがプレゼントの下調べにやってくる。ライオンズのおっさんらがいるのに、遠慮会釈なく触ったり、持ったり、中身を確認して、欲しいものをチェックしている。実にたくましくもあり、欲求に正直な行動だ。微笑ましくもある。子供たちはいつの時代も変わらず、野生動物のごとく屈託なくまっすぐである。

ビンゴ大会は、長蛇の列の受付を終了してからスタートする。ゲーム進行、運営は子供食堂側のスタッフが行い、ライオンズはプレゼント渡しに専念する。驚きは運営スタッフ側も若い人たち、もしくは子供たちが中心であった。聞けば彼ら、彼女らもボランティア活動を行っているとか。それは私たちが子供時代には地域内に普通にあった「こども会」に似ていると感じた。子供食堂について、一時を見て結論を語るのはどうかと思うがリスト化すると

- ① 孤食より、みんなで食べると楽しくおいしい。
- ② 年齢がバラバラの付き合いができると楽しくためになる。
- ③ 年に何回かのスペシャルがあると楽しい。
- ④ 頼りになる大人といろんな子供たちの絆が続く。
- ⑤ 学校だけでは学べないことがある。



これだけで、充分大切なコミュニティが仕上がっているのだが、ここにはあと、一番大事なそれ相応のお金が必要になる。国や市の予算はなかなか見込めないのが現状であろう。ライオンズクラブがここにどう関わっていくのか、どれほど関わっていくのかは未知数であるが、ライオンズクラブがケーキにイチゴを添える程度でも、喜んでいただき価値あることなら、喜んで関わらせていただきたい。

日本には7,000カ所の子供食堂があると聞く。運営も成り立ちも規模ももちろん違うであろうが、そこに集まる元気な子供たち、運営をするボランティアの皆様、子供たちには大変頭が下がる思いである。これからの日本を元気にしていく場所がここにあるような気がする。

ライオンズクラブのアクティビティがなければ、知らない世界であった。

地域社会の片隅に未来につながるコミュニティが存在するを知った。美しく強い日本を育てていこう。

会長 松本 直樹



堺浜寺LC

「かみひこうき子ども食堂」

○2022年1月よりスタート

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

当社社員が地域で子ども食堂を始めたいという事と、実施したい地域に子ども食堂がなかったのがきっかけ。クラブに報告した際、ぜひ支援したいとご意見を頂いた。

方針として初期支援(備品購入)と事業継続支援(金銭支援)。



○アクティビティについて

2022年1月、堺浜寺LC・地域の自治会他、たくさんの御支援を受けて「かみひこうき子ども食堂」がオープンしました。当時、今も続くコロナ渦のため、対面でのお持ち帰りテイクアウト方式でのスタートとなりました。

オープンに向け、自治会掲示板に案内チラシを20部ほど掲示させて頂き、慣れない買い出しも経験しました。初めてのことで、中でもテイクアウト用の弁当パックの選定には大変苦慮しました。思いのほか、弁当パックが高価でびっくり。電子レンジ対応か非対応か、下皿は黒か白か、スプーンは何色がいいのか?など。飲食店経験のみならず食材買い出しもままならないため、細かいことにも悩みましたがとても楽しい貴重な体験でした。

当日、どのくらい子ども達が来られるのか全く予想もできず、とりあえずキーマカレーを100食分準備しました。自治会より8升炊きの炊飯器をお借りして6升の米を炊き、ライオンレディー2名も応援に駆けつけてくださり、テレビでしか見たこともない大きな寸胴でグツグツ野菜を煮込みながら美味しいキーマカレーを作ってくれました。やはり女性の力は偉大と痛烈に実感しました。

11時、オープン時刻を迎えると予想以上の子ども達が外で待っていてくれました!あっという間の1時間で見事完売。労力奉仕で来てくれたライオンズメンバーも急遽受付、包装、受け渡し業務など汗をかきながら休憩する間もなく、一生懸命手伝ってくださり、とても和やかな雰囲気で大盛況でした。

子ども達にカレーを渡した時の大きな「ありがとう」の声と笑顔にとっても感動と快感を覚えました。以降、定期的に月に一度、第三日曜日に開催をしています。食数は限定50食としましたが、毎回1時間以内で完売となります。

子ども食堂を実施して気付いたことは、人と人の繋がり大切さ、奉仕することの楽しさ、何よりも関わる全ての方が笑顔でいることの嬉しさは言葉では言い表せないとても貴重な体験となりました。

世界では食糧難で食べることが出来ない人たち、つまり飢餓人口が2018年WFPの調べでは8億2千万人以上で9人に1人が飢餓に直面している状態です。LCIFも食糧支援に貢献しています。私たち堺浜寺LCとしても、まず地域から笑顔をつなぐ取り組みとして子ども食堂を積極的に進めていきたいと思っておりますので皆様のご支援、ご協力の程よろしく願いいたします。

公衆安全・環境保全・視力保護盲人福祉委員長
かみひこうき子ども食堂 代表 岩本 辰也



堺陵東LC

子ども食堂アクティビティ

○2018年からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針

堺市は、様々な家庭環境で暮らす地域の子どもたちを対象に食事と居場所を提供し、見守り、必要に応じて支援機関につなぐことを目的に「子ども食堂」に取り組んでおり、堺市社会福祉協議会を通じて子ども食堂の開設補助などが実施されています。

当クラブではその活動に賛同し、子ども食堂を通じて地域と子どもたちのつながりを支援する「青少年育成アクティビティ」としてこのアクティビティを実施しています。



○アクティビティについて

堺市では、子ども食堂に期待される役割を以下のように掲げています。

1. 地域の身近な場所で子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供
2. 食事に加え、学習支援、生活習慣の改善、様々な体験活動の機会等を提供
3. 食事をきっかけに子どもたちが地域と繋がり、支援が必要な場合には適切な支援につなぐ

当クラブでは2018年に堺市西区「石津っ子食堂」への支援を開始しました。石津っ子食堂では約80名の近隣児童や保護者、学校の先生、自治会の方が月1回地域の公民館に集まってみんなで食事をされており、フードバンクや企業などから提供された食材を用いて調理されていましたが、それでは食材が不足、献立を決めてから不足している食材を当クラブで提供する形で支援を実施してきました。それ以外にもメンバーが配膳に参加したり、テーブルと一緒に食事をしたり、クリスマスにはビンゴ大会も行いました。メンバーも一緒に楽しく参加することで子ども食堂の現状を把握することができ、堺市の方針に則った中で様々なアクティビティのアイデアに繋がりました。

2021年からは対象を堺市西区全域に拡大し、堺市社会福祉協議会と連携して13カ所の子ども食堂を順番に支援しております。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各子ども食堂が実施を見合わせたり、お弁当配布に形式を変更したりする中でも食材提供は継続し、お弁当配布に立ち会うなど工夫をしながらアクティビティを行っております。

西区13カ所の子ども食堂の中には、ユニークな実施をされているところもあります。

「向丘みんな食堂」では、小学校で栽培した野菜を食材に使用されており、11月には小学校のハロウィンパーティーに合わせて食堂を開催し、お菓子の掴み取りなども行われていました。

「福泉東校区子ども食堂つう心」は、朝7時から実施し、参加した児童は登校前に子ども食堂で朝食をとります。近くの歯科医が来られ、食事後に歯磨きの仕方をレクチャーされています。

いずれの子ども食堂でも実際に参加してみてわかった事は、その地域の大人が子ども食堂を通じて子ども達に積極的にふれあい、コミュニケーションをとる事で「子どもの孤立防止・居場所づくり」に関わっています。そうした中で学習支援や生活習慣の改善、様々な体験活動の機会提供ができており、大人が子どものちょっとした異変に気付けばいち早く支援に繋がられる素晴らしい活動です。子ども食堂は、ややもすれば貧困対策やひとり親の支援のように聞こえますが、実際に携わってみると地域の大人と子どもがコミュニケーションを取る機会として運営されている方が多いように感じます。

当クラブではこれまでの経験を踏まえ、これからも色々なアイデアを出し合いながら、様々な方法で子ども食堂を支援し、青少年育成に取り組んで参ります。

マーケティング委員長 井上 裕介



海南LC

子ども食堂の支援

○2021年からの継続アクティビティ

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針
 きっかけは近隣における子ども食堂の探索でした。
 クラブ方針として、奉仕の精神に基づき、引き続き、子ども食堂の期待に沿う形で、できる限り子ども食堂への支援を継続実施していく。

○アクティビティについて

前会長が、全国各地で子ども食堂が運営されていることから、奉仕活動の拡大を図るためにも、当クラブの近隣地域における子ども食堂を探索したところ、隣町で独自に子ども食堂を運営している旨の情報を得た。

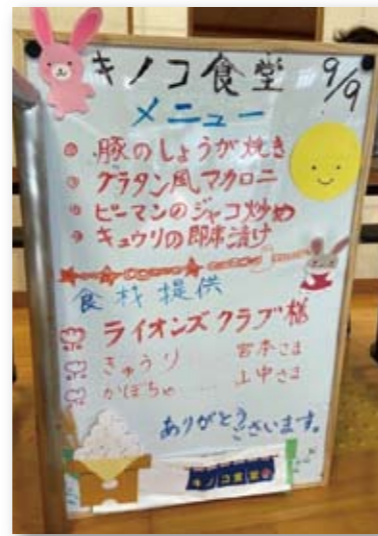
時期的にもコロナ禍により、なかなか連絡が取れない状況の中、ようやく連絡が取れ、コロナ禍で休止していた食堂を近いうちに再開する旨の確認が取れた。

当クラブとして、食材の提供を提案し、具体的には予算の範囲内で食材を購入し定期的に提供することをお願いした。

毎月第2金曜日に実施されていることから、前々日の水曜日に食材リストの連絡をいただき、それに基づき木曜日に食材を購入し、子ども食堂へ届けている。

今後も、食材提供、またクラブへの連絡の負担や柔軟な食材選択を鑑みて金銭提供も含めて、貧困への直面、また家庭の事情等により困難を抱える子供たちへの支援及び地域の住民と子供たちのコミュニティの場でもある子ども食堂の運営サポートのためにも支援を継続していきたいと考えている。

奉仕委員長 古田 光昭



東大阪東LC
HANA ZONO支部

子供食堂

○2017年11月11日開始

○このアクティビティを行うようになった「きっかけ」や経緯とクラブの方針
 以前から子供と関わるのが楽しく、TVで子供食堂をしているのを見て有志で始めました。誰が来ても良い子供食堂にしたかったのです。

○アクティビティについて

子供食堂をするにあたり、妻に相談すると快く応援すると言ってくれました。それから友達や近所の方に話をすると、たくさんの方が賛同してくれ、その足で保健所・自治体にも相談に行きました。

簡単に許可がもらえるものと思っていましたがそうではありませんでした。保健所が許可を出すには、子供食堂専用の厨房と食器を使わないといけないと言われたのです。色々な制限があり、なかなか前には進みませんでした。食べる場所も自治会館を借りる予定でしたが、役所の許可が無くては貸せないと言われ、挫折しそうになりました。

そこで、『近所のおっさんが近所の子供にご飯を食べさせるのに許可が要りますか?』と保健所に言いに行き、少し強引ではありますがやってみないと前に進まないと思い、子供食堂が始まりました。

告知の方法ですが、地域の幼稚園・小学校・中学校で案内を配布してもらいました。初回の子供食堂は、自宅の一升炊きの炊飯器2台で米を炊き、カレーは大きなお鍋1つに60人分ほど作りました。しかし、思った以上に子供達が来てくれ、おかわりもしてもらったのでご飯が足りなくなり、再度炊くことになりバタバタでした。また2回目は途中でカレールーが足りずレトルトカレーを追加で買いに走ったため、子供たちが食べるまでにすごく時間がかかりました。そんな事を繰り返しながら前回の課題を踏まえ、改善しつつ子供食堂を開催していました。

あるとき、地域の会議で子供食堂の話をする、認定こども園恵徳幼稚園の神足園長先生が園の給食室でご飯を炊くと言ってくれたのです。自宅の炊飯器で大量のご飯を炊くには限界があったので、園長先生の申し出はとてもありがたかったです。

子供たちの人数を踏まえ、1回の子供食堂でお米12キロ、ルー4キロの約150人分を作ることになりました。

また、夏にはカレーではなく、かき氷とパンで100円、かき氷とポップコーンで100円とした事もありました。2022年の秋には芋掘りを開催しました。子供食堂でも季節を感じてもらえるよう少し内容を変えて取り組みました。

今ではありがたい事にたくさんの方々から協賛頂いています。FBを見た居酒屋のオーナー様(笑福居酒屋げんぶ北巽店)からお米200キロの提供の申し入れがあり、ありがたく頂戴しました。

また、私の先輩の焼肉屋さん(炭火焼肉岩倉)からお肉を、東大阪布施LCからスプーンとカレー皿、東大阪河内LCからはお水を毎回頂いています。

カレー100円となっていますが『みんなでカレーを食べよう』と始めた子供食堂なのでお金の強制はしていません。収益目的ではないので、貰ったお金は貯めて施設の方に寄付しています。

準備等大変な事もありますが、子供達が子供食堂を楽しみに来てくれて、おいしかった!ありがとうございます!と笑顔で帰って行く姿を見ると、この子供食堂を始めてよかったと思いますし、これからも続けていきたいと思っています。

地区アラート委員 中道 俊樹

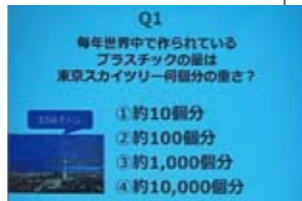


環境保全セミナー

昨年8月21日、津田地区ガバナーが自ら河内長野LCが協力されている一般社団法人のプロジェクトに参加され、『海のSDGs!』の講演に魅了されました。そこでお知り合いになられた大阪公立大学現代システム科学研究科准教授（一般社団法人加太・友ヶ島環境戦略研究会 代表理事）の千葉知世先生と意気投合し、行政・市民・企業を巻き込んだ清掃奉仕活動の友ヶ島清掃プロジェクトがライオンズクラブでスタートしました。

1月27日の環境保全セミナーは、友ヶ島に漂流する海洋ゴミの清掃について、1ヶ月を要する長い期間行う計画とその実行に向けて、メンバーの皆様にご説明とご理解を頂戴するために開催されました。千葉先生は、まず行動することが大切だと言われ、ライオンズクラブのこの活動に大いに期待されています。

このプロジェクトを必ず成功させると共に、継続させる事が大変重要になると思います。ライオンズクラブメンバーのご理解宜しくお願いたします。一般社団法人加太・友ヶ島環境戦略研究会の活動はコチラ <https://tomogashima.or.jp/>



新会員スクール

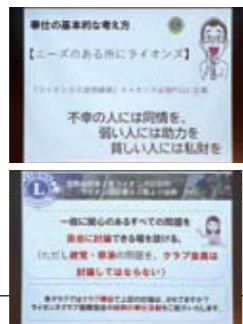
今年度の新会員スクールは、対象者を入会から3年未満のメンバーとして、1月30日和歌山・2月6日大阪にて開催されました。

角指導力育成 (GLT) 委員長より、ライオンズ公式アプリや地区ホームページへのアクセス方法などソーシャルメディアに関する説明を、藤田会則委員長はその場でメンバーを指名し、壇上でライオンズ必携の「ライオンズ国際協会の目的やスローガン・モットー・ライオンズの誓いなど」を読んでもらいました。

そして、松秋キャビネット幹事により「ライオンと呼ばれる人」が朗読されました。

岡田指導力育成 (GLT) コーディネーターは、「次世代のライオンズ〜つなぐ未来〜 ライオンズの誇りを胸に (L字の誇りを胸に)」と題して講演されました。

入会3年未満の新会員にとって、メンバーの心構えができたスクールではなかったでしょうか。新会員の皆さんが「ライオンと呼ばれる人」を目標にこれからのライオンズライフを過ごしていただきたいと思ひます。



11R 防災訓練

1月29日義務教育学校池島学園後期課程校舎において、11R防災訓練が行われました。この行事は、地区アラート委員のL中道俊樹 (東大阪東) により企画立案・実行されたものです。

当日は、津田地区ガバナー、西尾第1副地区ガバナー、松本アラートコーディネーター、中田アラート委員長にもご参加いただきありがとうございました。

訓練の内容は、水消火器の使い方の練習、AEDの取り扱い、簡易ベッド・テント設営訓練となっており、3グループに分かれローテーションでそれぞれの訓練を受けました。

突発的な災害に対応する訓練は、自分の命を守りまた他人の命を守る行動ができるようになります。このような訓練を一人でも多く体験していただきたいと実感しました。



特別企画

日本ライオンズ大学校講師探訪

L山西 陽裕 9R1Z和歌山南LC

カテゴリー 3 法律・税務関係



和歌山市で山西陽裕法律事務所を経営されるL山西にスピーチ内容をお伺いしました。

和歌山県和歌山市園部で発生し、毒物混入の無差別殺傷事件として、社会を震撼させた和歌山毒物カレー事件 (平成10年7月25日)。

カレー事件は、弁護士が組織的に被害者支援に関わるさきかけとなった事件でもあり、犯罪被害者に弁護士が無償で支援すること自体が珍しいケースでした。当時、和歌山弁護士会の所属であった8名が被害者支援の弁護団として、任意で犯罪被害者支援弁護団を結成し、支援を行いました。

その8名の内の一人がL山西でした。同弁護団では、「被害者に寄り添って支援を行ってほしい」という思いのもと、裁判の傍聴、行政への申し出、新聞記者対策などの犯罪被害者を守るための支援活動を精力的に行っていました。

現在、和歌山県では女性が性被害にあった際に保護をする性暴力救援センター和歌山「わかやまmine (マイン)」が設立され、また犯罪被害者支援条例が制定されている状況です。

具体的なスピーチの内容としては、1979年に公開された「衝動殺人 息子よ」という、通り魔に息子を殺された夫婦が被害者の補償を訴えていく映画を中心に、犯罪被害者給付金制度やその後の犯罪被害支援制度の経緯や内容について行うとのことでした。

取材：広報(MC)委員 小谷 耕司



L長岡 史郎 9R2Z岩出LC

カテゴリー 10 その他



長岡測量・土地家屋調査士事務所を経営、測量、設計、調査、各種開発許可申請、表題登記に関する業務をされています。

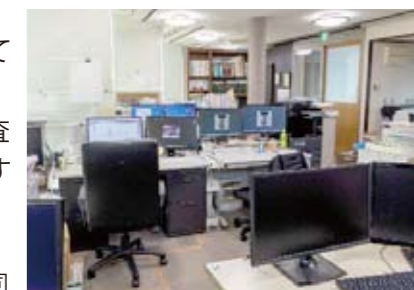
●このお仕事を始められたきっかけは？
近畿測量専門学校を卒業後、測量業界に入り、人のためになる仕事がしたいと思い、始めました。

●スピーチ内容にある「土地を開発するとき知っておくべきことや注意すべきこと」を数点教えてくださいませんか？

あらかじめ法令等による行為規則、地形・地質・地盤条件等の土地条件、過去の災害記録、各種公表された災害危険想定地域の関係資料等について必要な情報を収集し、防災上の観点から十分に検討すること。

気象、地形、地質、地質構造、土質、環境、土地利用状況等に関する調査を行い、開発事業区域や必要に応じてその周辺区域の状況を十分に把握すること。

取材：広報(MC)委員 小谷 耕司



L津村 尚志 10R1Z御坊中央LC

カテゴリー 6 文化関係



81歳の地域古代史愛好家
中学生の時の疑問が65歳になって解き明かされたロマン
今でも現地取材し知識を深めている

【ゲスト】
日本ライオンズ大学校講師
10R1Z 御坊中央ライオンズクラブ所属
津村 尚志 (つむら たかし) 氏
年齢81歳 ライオン歴44年
株式会社日高新報社 代表取締役会長
得意分野:日本史 なかでも特に古代史

【聞き手】
広報(MC)委員 中川 彩(白浜南)

【インタビュー】

- 中川) 長年新聞記事制作などで様々な取材をされている大ベテランを目の前に緊張しますが、インタビューをさせていただきます。よろしくお願いいたします。
- 津村) 私のお話で良ければ、おこがましいですけれどもよろしくお願いいたします。
- 中川) まず津村さんで自身のことを教えていただけますか。
- 津村) 私は30歳の時に東京からUターンして日高新報社に入社し、今年で51年になります。私たちが今生きているこの地元について“できる限り知る”ということは大切です。「過去があるから今がある、今があるからこそ子どもたちの未来がある」と考えるので、日高地方を少しでも正しくPRして地域の発展に繋がりたい、という想いを強く持っています。
- 中川) 津村さんの専門は古代史ということですが、古代史に興味を持ったきっかけはありますか？
- 津村) 私は御坊市立湯川中学校に通っていました。校舎北側近くの線路を渡ったところに「宮子姫」の銅像があり、そして近くの吉田山の山肌に「宮子姫」の壁画が飾られていました。その宮子姫がお生まれになったのがこの地で、地名を「九海士の里」と言います。海人(あま)でなく「海士」とあり、さらに「9人の士」と記されており、なぜかな?と疑問に思ったことが興味を持つきっかけとなりました。
- 中川) そこから掘り下げていったのですか。
- 津村) そうですね、中学・高校と一番好きな学科が日本史でしたから、入って行きやすかったということですかね。
- 中川) 中学生の時から興味を持ち始めてどのように調べていきましたか？
- 津村) 大学を出てからは会社の仕事で御坊を離れていました。それから30歳でUターンして日高新報社という日刊地方新聞社に入社しました。当時は、それはもう大変な新聞社でして、1週間に2~4日徹夜しないと新聞が発行できないというピンチが続いていました。入社以来17年くらいは新聞発行に全力を尽くしていたので、地元の古代史を調べる時間はありませんでした。
- 中川) 仕事が落ち着いてから調べ始めたのですか。
- 津村) はい、調べ始めました。私がこの地に帰ってきた昭和47年は市の人口3万5千人だったのですが、今では2万2千人。人口流出が激しく過疎化が進んでいる中、このふる里をなんとか発展させなきゃいけない、元気を出させなきゃいけない、という想いでいっぱいになりました。人が減っていくのならリピートしてもらえるような魅力ある観光資源をきちんと開発し、人に来てもらえば良いと考えました。観光客が多くなればそれに携わる働く人が増えていくので、人口流出にも歯止めがかかるし、人口増加に繋がるという想いを持ちました。

観光資源としてこの地の一番の大きな目玉は「道成寺」です。「道成寺」を文武天皇に建立させたのが「宮子姫」。「宮子姫」は聖武天皇の生母です。聖武天皇は東大寺でも有名です。その偉大な天皇の生母が地元出身であるということ。そしてもう一つの目玉が「岩内一号墳」で、これは有間皇子が眠る古墳です。この二つの活用は必須で、さらに全国一短いローカル私鉄である紀州鉄道、また盛大な祭りがある小竹八幡神社もあります。その小竹八幡神社の守り神が神功皇后と応神天皇です。日高地方には神功皇后の足跡が各所にあり、その足跡からこの辺りの地名「衣奈」「産湯」などが付いています。そして「九海士の里」の名称もその一つで、神功皇后がこの地の住民に大変世話になったことのお礼と地域を守るために9人の兵士を残していった、ということなんです。そこで私は初めて知ったのです。9人の侍が残された漁村であるから海人や海女でなく「九海士の里」という名称が付いたということ。まさに中学生の時の謎が解けた瞬間だったのです。

- 中川) 中学校の時の謎が解けるまで、どのくらいの年月が経ちましたか？
- 津村) 謎が解けるまで・・・、13歳の謎ですから、解けたのが今から15年前くらいですから、さあ、勘定してください(笑) 私が65歳くらいの時に解けたのですから、今は81歳です。50年余りぶりに解けたということですかね(笑)
- 中川) すごーい!ロマンがありますね(笑)
- 津村) ありがとうございます(笑) それ解けたことをきっかけに地名にさらに関心を持つようになりました。
- 中川) 最近はどのような活動をしていますか？
- 津村) 地名には必ず由来があることを知ったので、その真相を確かめるために取材をしています。日高地方の日高という地名は、北海道の日高町をはじめ全国各地にたくさんありますが、本家本元は当地方です。これからは古代のことを調べるために取材にあちこち行きたい。特に神功皇后と応神天皇のことを調べるとなると九州に行かなければなりません。そうなるクラブ例会に皆出席ができないので、現在は名誉会員として所属させていただいています。先週も取材に福岡へ1泊2日で行ってきたところです。
- 中川) 現地に行くと新たな発見があるのですか？
- 津村) ありますね。だから現地を踏まないダメです。実際に行ってみるとこれまで知らなかったゆかりの地がありますね。我々新聞社の仕事は“取材”が記事を書く上での根本であり、原点です。
- 中川) 最後になりますが、「ゆうあい」のこの記事を読んでくださっている方にメッセージをお願いします。
- 津村) 「ゆうあい」はライオンズの基本だと思っています。一番に「友愛・友情」というのがあってこそライオンズの値打ちが高く、大きくなっていると、入会以来ずっと思っています。だからといって私は「ゆうあい」を全部読んでいないわけでもないのですけれども、「ゆうあい」という題名が付いていること自体もライオンズそのものを表していると思います。ライオンズに入った以上は「友愛・友情」は「奉仕・We Serve」と同様に重要であると、私はそう信じています。
- 中川) ありがとうございました。
- 津村) はい、ありがとうございます。

【取材後記】

地域観光は、地域の事を正しく知り、理解したうえで開発や発展させていくことが重要であると感じました。観光資源の基礎能力が最大限に活用されて地域観光が発展していくことはとても楽しみです。津村さんお忙しいところ取材に応じいただきありがとうございました。



「ライオンズ祭り ～つなぐ未来へ～ SDGsを次世代へ」



会場は原池公園全域、原池公園は堺市を代表する同市最新の大型公園(総面積17.5ha)で、公式戦可能な野球スタジアム・総合体育館・スケートボードパーク・600人収容のBBQ施設・大型遊具等が併設された市民の交流憩いの場です。

是非この公園で「ライオンズ祭り」を!それがきっかけで、実行委員長である洞淵RCのもと7R11クラブ(堺LC・堺浜寺LC・堺陵東LC・堺高石LC・堺仁徳LC・堺登美丘LC・堺フェニックスLC・泉大津LC・和泉大阪LC・和泉中央LC・いずみそれいゆLC)が一致団結しました。

事前の天気予報では当日は100%雨!これだけ準備を重ねてきたのに万事窮すか…てるてる坊主さんに必死に頼んだ皆の思いが通じたのか、天気は直前に好転し夜中から降っていた雨も朝7時の準備開始時刻からはピタッと止み、そのまま終日一滴も降りませんでした。何という奇跡か!本当に天に感謝でした。

本事業の趣旨は、持続化可能な世界を目指しSDGsの考えを広く市民に知っていただく、特に子どもたちに学んでもらうこと。世界最大の奉仕団体であるライオンズクラブの存在と活動を知っていただくこと。そして何よりも参加者とメンバーと一緒にライオンズ祭りを盛り上げて楽しむことでした。

堺市・堺市教育委員会の後援を頂き、堺市内の小学校と近隣の自治体にチラシ・ポスターを配布することができました。また担当メンバーはSNSを通してPR周知活動を頑張りました。その成果もあり、一般市民の方の参加が約4,500名、ライオンズメンバーと家族の参加が約500名合計5,000名の参加者があり会場は大変盛況でした。

「SDGsを楽しく学ぶスタンプラリー」の参加者だけ見ても1,000組/約3,000人を達成、4時間弱で予定した定員を達成し早々と受付打ち切りとなりました。SDGsの考え方を広く市民に周知していくという目標はかなり達成できたのではないかと自負するところです。

特設ステージでは、堺太鼓の迫力ある太鼓演奏でオープニングの幕を開け、和泉市の親善大使で次世代を担う鼓聖泉ジュニアをはじめ、園児・小学生・中学生主体の16団体によるダンス・バトン・演舞・チアリーディング・剣道演武などの出演者総数約450名がパフォーマンスを披露しました。



保護者や指導者の方々から「子どもたちはコロナ過で開演中止・集まりの自粛など、発表する場がなく辛い思いをしていました、こんな機会を与えてもらい感謝しかありません。」と熱いお言葉と子どもたちからは「ありがとうございました。」の笑顔をもらいました。ライオンズクラブのアクティビティは、どんな状況でもどこかで求められている。そう改めて感じました。

テントで出展いただいた社会貢献ブースでは、SDGsに特化したアクティビティを実施しました。各ゾーンでブースを分け、1Zのテントブースでは、堺は茶の湯文化が発展した街です。コンパクトなスペースの中で和装の学生にお茶をたていただき、美味しいお抹茶と和菓子提供しました。2Zは、メンバーがSDGsを意識し古着や日用品・雑貨などバザーの品物を多数持ちより仕分けし、格安の値段を付けて皆さんに再利用を呼びかけて販売しました。3Zは災害復興支援ブース、復興支援の物資は東北や熊本で被災された方々が地元で販売されている食料品を中心に揃えました。まだまだ復興道半ばの皆様のためにメンバーも購入させていただきました。

一般では、身体障害者作業所の手作りお菓子の販売、一型糖尿病患者支援団体の子どもたちが活躍するブース、動物愛護団体による犬猫里親探し、医学生による若者の力で命を守る社会を創る「inochi学生プロジェクト」の披露、劇団によるSDGsパフォーマンス、ハンドメイドマルシェなど出展いただきました。

賑わいをみせたのは、大人も子どもも大好きな縁日露店50店、キッチンカー20台、懐かしいお化け屋敷、大道芸人パフォーマンス、ロボマスター体験など、長い列もありました。

協力団体は、野球独立リーグ堺球団シュライクスのファン感謝デーとのコラボ、日本赤十字社から献血車両を2台配置していただき、献血担当メンバーが献血の呼びかけと骨髄バンク登録お願いをしました。

開催にあたっては、数か月前から実行委員会を立ち上げ委員会を重ねました。初めての試みなので試行錯誤のすえ開催にたどり着きました。7R各クラブの実行委員は本当に尽力してくれました。前日は遅くまで会場設営ステージ設置、また当日は各クラブから多くのメンバーが参加しました。

堺市・堺市教育委員会の後援もありましたが、市民の皆様から「ライオンズクラブってすごいね!お祭りすごく楽しかったよ!久しぶりにお友達と会える場を与えてくれてありがとう!SDGsって身近にあるんだね!」など笑顔とたくさんの言葉を頂きました。

開催して良かったです、自ずとメンバー同士の結びつきも強くなりました。



SDGsを次世代へ

ライオンズ祭り ~つなぐ未来へ~

SDGs スタンプラリー

1 スタンプラリー スタート地点
SDGs 目標 10「人や国の不平等をなくそう」

10 人や国の不平等をなくそう

クイズに挑戦！
世界で最も裕福な人は、誰か何人分の貧乏な人を持っているか？

A 100人
B 1000人
C 10000人

正解は...
C 10000人

世界で最も裕福な人、ビル・ゲイツ氏は、世界で最も貧乏な人、アムンガ・ベツ・ツェツェ氏に比べて、10000倍の富を持っています。

ライオンズ祭りへつなぐ未来へ SDGsを次世代へ

SDGsのスタンプラリーに挑戦しよう!

会場内の1〜6の各ブースにあるクイズに答えてスタンプを集めてね。
6つのスタンプを集めると素敵な景品がもらえます。(先着 1000名)
3つのスタンプを集めると素敵な景品がもらえます。
10月20日(土)まで有効です。景品はなくなり次第終了となります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2 キッチンカーエリア
SDGs 目標 2「飢餓をゼロに」

2 飢餓をゼロに

クイズに挑戦！
世界の何パーセントの人が飢餓に苦しんでいるだろうか？

A 10%
B 15%
C 20%

正解は...
C 20%

世界の人口の約20%の人が飢餓に苦しんでいます。これは、飢餓に苦しんでいる人々の数が、世界の人口の約20%に達しているからです。

6 ライオンズ本部前
SDGs 目標 4「質の高い教育をみんなに」

4 質の高い教育をみんなに

クイズに挑戦！
世界中で学校に通っていないのは、男の子と女の子どちらが多いかな？

A 男の子
B 女の子
C ほぼ同じ

正解は...
A 男の子

世界中で学校に通っていないのは、男の子の方が多くなっています。これは、男の子の方が学校に通っていない理由が、貧困や労働力不足などにあるからです。



3 くら寿司スタジアム前
SDGs 目標 3「すべての人に健康と福祉を」

3 すべての人に健康と福祉を

クイズに挑戦！
セリアという病気を広めているのはどこの国かな？

A 中国
B 日本
C 韓国

正解は...
C 韓国

セリアという病気を広めているのは、韓国の国境に近い地域です。これは、韓国でこの病気が最初に発見されたからです。

5 ロボマスター前
SDGs 目標 9「産業の技術革命の基盤をつくろう」

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

クイズに挑戦！
先進国のネット普及率は約90%。途上国ではどのくらいでしょう。

A 50%
B 30%
C 10%

正解は...
B 30%

途上国では、ネットの普及率がまだ低くなっています。これは、途上国ではネットの普及に必要なインフラや資金が不足しているからです。

ライオンズ祭りへつなぐ未来へ SDGsを次世代へ

SDGsのスタンプラリーに挑戦しよう!

会場内の1〜6の各ブースにあるクイズに答えてスタンプを集めてね。
6つのスタンプを集めると素敵な景品がもらえます。(先着 1000名)
3つのスタンプを集めると素敵な景品がもらえます。
10月20日(土)まで有効です。景品はなくなり次第終了となります。

1 2 3 4 5 6

4 社会貢献ブース前
SDGs 目標 16「平和と公正をすべての人に」

16 平和と公正をすべての人に

クイズに挑戦！
難民とはどのような人かな？

A 戦争で逃げてきた人
B 貧乏な人
C 病気の人

正解は...
A 戦争で逃げてきた人

難民とは、戦争や迫害で逃げてきた人です。これは、彼らは自国で安全な場所を見つけることができないからです。



準備



パフォーマンスステージ



ブース

